

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第50回システム安全専門部会議事録

1. 日 時 2019年11月6日 (水) 13:00~18:05

2. 場 所 5 東洋海事ビルD 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 岡本部長 (報告案件の途中から退席), 鬼沢副部長, 鈴木幹事, 青木 (報告案件の途中から退席), 阿部 (報告案件の途中から退席), 井村, 上野, 荻田 (審議案件の途中から退席), 北島 (審議案件の途中から出席), 工藤, 後藤, 杉野, 中川, 中村, 深野, 三村, 宮地 (17名)

(欠席委員) 大川, 鎌田, 木藤, 室屋 (4名)

(常時参加者) 小野, 成宮 (2名)

(オブザーバ) 伊藤圭介 (中部電力/委員 (PLM 分科会・統合的安全性向上分科会))

(説明者) 【PLM 分科会】中川幹事, 松藤委員, 伊藤常時参加者, 【統合的安全性向上分科会】成宮主査, 倉本幹事, 【BWR 熱流動評価分科会】工藤分科会代表, 野崎幹事, 【統計的安全性評価手法標準分科会】工藤主査, 尾崎委員, 末廣常時参加者, 【基本戦略タスク】河井幹事, 成宮幹事, 【システム安全専門部会】鈴木幹事 (延べ 13 名)

(事務局) 田老, 谷井, 牧野 (3名)

4. 配付資料

STC50-0 第 50 回システム安全専門部会議事次第 (案)

STC50-1 第 49 回システム安全専門部会議事録 (案)

STC50-2 人事について (案)

STC50-3-1 “原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X” 標準改定の概要に関する標準委員会意見募集結果の結果について

STC50-3-2 “原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X” 本格改定の概要標準委員会意見対応案

STC50-3-3-1 “原子力発電所の高経年化対策実施基準” の改定の中間報告 (標準委員会への中間報告案)

STC50-3-3-2 “原子力発電所の高経年化対策実施基準 (202X (案))” 本格改定の概要 [中間報告]

STC50-3-3-3 “原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X”

STC50-4-1 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” の公衆審査結果について

STC50-4-2 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” の公衆審査で頂いたご意見への対応について (SC78-3-3-2)

STC50-4-3 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” 標準原案の公衆審査で頂いたご意見への回答案に関する決議投票の結果について

STC50-4-4 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X” 標準原案の公衆審査で頂いたご意見への回答案に関する決議投票時のご意見及びそれへの対応

STC50-4-5 原子力学会「原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X」の公衆審査で頂いたご意見への回答 (案)

STC50-5-1 “原子力発電所の定期安全レビュー実施基準：2009” 標準の廃止に関する当専門

- 部会決議投票結果について
- STC50-5-2 “原子力発電所の定期安全レビュー実施基準：2009” 標準の廃止に関する標準委員会決議投票結果について
- STC50-6-1 ““原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する指針：2015” のより良い理解のために（技術レポート） “の検討状況に関する当専門部会意見募集結果について
- STC50-6-2 ““原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する指針：2015” のより良い理解のために（技術レポート） “の検討状況に関する標準委員会意見募集結果について
- STC50-6-3 ““原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する指針：2015” のより良い理解のために（技術レポート） “の検討状況に関する当専門部会意見募集で頂いた意見への対応について
- STC50-6-4 ““原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する指針：2015” のより良い理解のために（技術レポート） “の検討状況に関する標準委員会意見募集で頂いた意見への対応について
- STC50-6-5 ““原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する指針：2015” のより良い理解のために（技術レポート） “本報告レポート案
- STC50-7 “BWR の核熱水力安定性評価基準：201X” 標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受付けた意見への回答案について
- STC50-8-1 “統計的安全評価の実施基準：201X” 標準改定原案の用語及び定義の見直し箇所を対象とした決議投票（再投票）の結果について
- STC50-8-2-1 “統計的安全評価の実施基準：201X” の改定原案に関するシステム安全専門部会再投票コメント（賛成票）への対応表
- STC50-8-2-2 “統計的安全評価の実施基準：201X” の標準原案の用語及び定義の見直し箇所を対象とした決議投票（STC19-01）における意見付き保留などのご意見，分科会からの補足説明，再投票時（STC19-05）の反対意見など
- STC50-8-3 “統計的安全評価の実施基準：201X” の改定原案に関する標準委員会の意見への対応表
- STC50-8-4 “統計的安全評価の実施基準：201X” 標準改定原案
- STC50-9-1 学協会規格高度化 WG 報告書（案）が挙げる論点への対応について
- STC50-9-2 学協会規格高度化 WG 報告書の概要 協議会報告 R1.9 R1
- STC50-10 ASRAM2019 報告
- STC50-11 システム安全専門部会 標準策定 5 か年計画（2020 年度版案）
- STC50-12 分科会活動状況
- STC50-13 システム安全専門部会・分科会 倫理規程等講習会の受講実績
- STC50-14 現行標準の 5 年毎の改定実施状況の調査について

参考資料

- STC50-参考 1 システム安全専門部会委員名簿
- STC50-参考 2 システム安全専門部会出席実績
- STC50-参考 3 原子力学会標準の幅広い利用に向けて（依頼）

5. 議事内容

(1) 出席者確認

事務局から開始時，委員 21 名中 16 名が出席しており，成立に必要な定足数（14 名以上）を満足している旨報告があった。

(2) 前回議事録（案）の確認（STC50-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

なお，事務局より，前回のシステム安全専門部会（8/6開催）のBWR熱流動評価分科会人事

案件について、常時参加者登録解除(確認)で佐合様(中部電力), 常時参加者登録承認(確認)で古城様(中部電力)を報告したが、後日当該分科会より“該当なし”の連絡があり、当議事録や人事についての資料は訂正した旨を報告し了承された。

(3) 人事 (STC50-2)

事務局から STC50-2 に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、審議の結果、専門部会の委員再任等が決議され、分科会委員退任等が確認された。

なお、部会長より、人事データに“主査指名”とあるが“主査選任”であり、訂正するよう指導があった。

1) 専門部会

1. 決議事項

(1) 委員再任

中川 信幸	原子力エンジニアリング	2020.03~2022.02
-------	-------------	-----------------

2) 分科会

○統計的安全評価手法標準分科会

1. 承認決議事項

(1) 委員選任

大川 理一郎	電力中央研究所
木下 郁男	原子力安全システム研究所
笹川 達也	原子燃料工業

2. 確認事項

(1) 委員退任

末廣 祥一	東京電力ホールディングス	2019.09.09
野崎 謙一郎	テプコシステムズ	2019.09.09

(2) 委員所属変更

尾崎 哲浩	原子燃料工業⇒テプコシステムズ	2019.07.01
-------	-----------------	------------

(3) 常時参加者登録解除

佐藤 允俊	東京電力ホールディングス	2019.06.28
笹川 達也	原子燃料工業	2019.07.01
木下 郁男	原子力安全システム研究所	2019.08.09

(4) 常時参加者登録承認

末廣 祥一	東京電力ホールディングス
野崎 謙一郎	テプコシステムズ

(5) 常時参加者所属変更

片山 正晶	三菱重工業⇒MHI NS エンジニアリング	2019.04.01
-------	-----------------------	------------

(6) 主査選任

工藤 義朗	東京電力ホールディングス
-------	--------------

(7) 副主査退任

工藤 義朗	東京電力ホールディングス	2019.09.09
-------	--------------	------------

(8) 副主査指名

柴本 泰照	日本原子力研究開発機構
-------	-------------

(9) 幹事退任

末廣 祥一	東京電力ホールディングス	2019.09.09
-------	--------------	------------

○BWR 熱流動評価分科会

1. 承認決議事項

(1) 委員選任

土屋 暁之	日立 GE ニュークリア・エナジー
中村 良輔	東芝エネルギーシステムズ

2. 確認事項

(1) 委員退任

佐合 優一	中部電力	2019.08.20
近藤 貴夫	日立 GE ニュークリア・エナジー	2019.10.17
本谷 朗	東芝エネルギーシステムズ	2019.10.17

(2) 常時参加者登録解除

佐藤 允俊	東京電力ホールディングス	2019.6.28
土屋 暁之	日立 GE ニュークリア・エナジー	2019.10.2
中村 良輔	原子燃料工業	2019.10.17

(3) 常時参加者登録承認

尾崎 哲浩	テプコシステムズ
古城 宏規	中部電力
近藤 貴夫	日立 GE ニュークリア・エナジー
本谷 朗	東芝エネルギーシステムズ
山田 大智	東京電力ホールディングス

(4) 常時参加者所属変更

末廣 祥一	東京電力ホールディングス⇒テプコシステムズ	2019.10.1
-------	-----------------------	-----------

(5) 幹事退任

久保 雄一郎	原子燃料工業	2019.10.17
近藤 貴夫	日立 GE ニュークリア・エナジー	2019.10.17
本谷 朗	東芝エネルギーシステムズ	2019.10.17

(6) 幹事指名

田代 祥一	グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
土屋 暁之	日立 GE ニュークリア・エナジー
中村 良輔	東芝エネルギーシステムズ
野崎 謙一郎	テプコシステムズ

○PLM 分科会

1. 確認事項

(1) 常時参加者登録解除

持丸 昌之	東北電力	2019.10.25
-------	------	------------

(2) 常時参加者登録承認

赤間 喜代志	東北電力
--------	------

(4) 報告・審議

1) 【報告・審議】(STC50-3-1, STC50-3-2, STC50-3-3-1, STC50-3-3-2, STC50-3-3-3)

“原子力発電所の高経年化対策実施基準：202X” 標準改定の概要に関する標準委員会意見募集結果と意見対応及び中間報告

(担当：事務局, PLM 分科会 中川幹事, 松藤委員, 伊藤常時参加者)

事務局から STC50-3-1 に基づき、題記標準改定の標準委員会意見募集結果、意見がなかったことが報告され、引き続き PLM 分科会 中川幹事から STC50-3-2, STC50-3-3-1, STC50-3-3-2, 及び STC50-3-3-3 に基づき、標準委員会概要説明で受け付けた意見対応案の説明、中間報告、及び標準委員会への中間報告案の説明があった。審議の結果、附属書の引用箇所の整理、附属書 F 規定化の経緯、及び旧式化の具体例などを、分科会で再検討してシステム安全専門部会三役で確認・承認が得られた場合に、標準委員会への中間報告を実施することが決議された。

主な質疑は以下。

Q：追加した附属書 G (参考) は、解説でもよいのでは。

A：SSG-48 のスコープすべてをカバーする重要な考え方を示すもので、是非独立した附属書としたいと考えている。

C：附属書 G.7 非物理的劣化（技術、規格・基準類、知識）を、もう少し具体的に記載した方がよい。

Q：旧式化と陳腐化の違いをどう考えているのか。

A：ほぼ同様と考えているが、PLM分科会では旧式化を採用している。

Q：SLR（60年越え）の知見は考慮しているか。

A：GALL-SLRを確認しており考慮しているが、具体的に規定に取り入れた知見は今のところない。

Q：今回規定化する附属書FはSSG-48と整合しているのか。

A：SSG-48はIGALLで経年劣化事象ごと又は機器ごとのプログラムを作成しているため、附属書Fのような一般的な観点で経年劣化管理方法の分類はないが、不整合はないと考えている。

C：附属書F規定化の理由を、解説に記載した方がよい。また、規定化が保守管理に不必要な負担をかけないか再確認した方がよい。

2) 【報告・審議】(STC50-4-1, STC50-4-2, STC50-4-3, STC50-4-4, STC50-4-5)

“原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：201X”標準原案の公衆審査結果及び公衆審査で頂いたご意見への対応に対する標準委員会報告時に頂いた意見への対応について

(担当：事務局，統合的安全性向上分科会 成宮主査，倉本幹事)

事務局からSTC50-4-1に基づき、題記標準原案の公衆審査でご意見を受付けたことの報告があった。引き続き統合的安全性向上分科会 成宮主査，倉本幹事からSTC50-4-2に基づき、受付けたご意見への対応案について、第78回標準委員会（9月4日開催）に報告した際、お一人のご意見の対応案について、“安全目標”に関しては、リスク・システム安全の両専門部会でもう少し議論して、標準委員会に報告することになり、回答案について両専門部会で決議投票し、両専門部会で可決されれば標準委員会三役の判断で、意見を頂いた方に回答すると共に、制定・発行することが決議された旨説明があった。次に事務局からSTC50-4-3に基づき、前記決議投票で可決されたことの報告があった。引き続き統合的安全性向上分科会 成宮主査，倉本幹事からSTC50-4-4, STC50-4-5に基づき、決議投票での受付けたご意見への対応案及び公衆審査で頂いたご意見への回答案について説明され、審議の結果、一部修正して（リスク専門部会と連携して）前回の標準委員会で決議内容に従い標準委員会三役に決議投票結果を報告し、制定・発行することについてのご判断をお願いすることが決議された。

主な質疑は以下。

C：公衆審査で頂いたご意見への回答（案）の説明において追加した“実用発電用原子炉に係る新規規制基準の考え方について（NREP-0002）”は、その引用を明確に示すのが良い。

A：拝承。回答（案）において、引用文献として作成者，文書番号，発行年月日を回答欄の文章末尾に示す様に追記をする。

C：今回の説明資料において、リスク専門部会決議投票時の意見付き保留が解消されたことが示されていない。標準委員会への説明においては、それも記載した上で、説明するのが良い。

Q：拝承。意見2への回答案，及び公衆審査対応以外の編集所の修正については、前回標準委員会において承認されており、再度御確認いただく箇所のみを示すことを含めて、標準委員会への上程資料については作成したもので対応をする。

3) 【報告】(STC50-5-1, STC50-5-2)

“原子力発電所の定期安全レビュー実施基準：2009”標準の廃止に関する当専門部会及び標準委員会決議投票結果について

(担当：事務局，統合的安全性向上分科会 成宮主査，倉本幹事)

事務局からSTC50-5-1に基づき、題記標準の廃止に関する当専門部会及び標準委員会決議投票結果，両決議投票は可決された旨報告された。引き続き統合的安全性向上分科会 成宮主査，倉本幹事から、本件は、第78回標準委員会（9月4日開催）にて、廃止について報告し、審議の結果、標準委員会で30日間の決議投票へ移行すること及び可決（マイナ

な意見含む) の場合は、三役判断で公衆審査に移行することが決議されたことから、これに従い次に進むことが報告された。

4) 【報告・審議】(STC50-6-1, STC50-6-2, STC50-6-3, STC50-6-4, STC50-6-5)

“原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する指針：2015”のより良い理解のために(技術レポート)“の検討状況に関する当専門部会及び標準委員会意見募集結果並びに受け付けた意見への対応について

(担当：統合的安全性向上分科会 成宮主査, 倉本幹事)

事務局から STC50-6-1, STC50-6-2 に基づき、題記技術レポートに関する当専門部会及び標準委員会での意見募集結果、両者で意見があったことが報告された。引き続き統合的安全性向上分科会 成宮主査, 倉本幹事から STC50-6-3, STC50-6-4, STC50-6-5 に基づき、頂いた意見の対応案について説明があり、審議の結果一部修正して 30 日間の当専門部会の決議投票を行うこと及び、投票の結果可決された場合は、三役の判断で、次回標準委員会で報告することが決議された。

主な質疑は以下。

C：標準委員会からのコメントへの対応として、2.4 節に、安全性向上評価運用ガイドにおいて“SSG-25 又はそれと同等の規格”ということが求められており、その充足性を確認する目的で、PSR+指針と SSG-25 での要求事項の関係性について詳細に比較検討を実施したという記載にしているが、安全性向上に関するステークホルダーの一つに過ぎない規制者に寄った説明となっているのは、学会が示す標準、技術レポートしては不適切。安全性向上評価運用ガイドにおける“SSG-25 又はそれと同等の規格”ということが求められていることは記載しない、もしくは比較検討を実施してその結果を説明した後に、注記の形で安全性向上評価運用ガイドにおいて求められていることとの関係性にも言及するという記載の方が良いのではないか。この点につき、書面投票でのコメントとして挙げるので、対応を検討願う。

A：拝承。注記の形で安全性向上評価運用ガイドにおいて求められていることとの関係性に言及する記載の方向性で、修正を考える。

C：2.4 節において、SSG-48 の説明中で“陳腐化”という表現を使っているが、PLM 分科会の議論では“旧式化”という表現で統一していくということである。ここでの記載につき、適切な表現にする様、検討を願う。

A：拝承。

Q：技術レポートの制定に係る審議プロセスは？

A：専門部会における投票により決議を行う。標準委員会には、その結果を報告することとなる。

5) 【報告・審議】(STC50-7)

“BWR の核熱水力安定性評価基準：201X”標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受け付けた意見への対応について

(担当：BWR 熱流動評価分科会 工藤分科会代表, 野崎幹事)

BWR 熱流動評価分科会 工藤分科会代表, 野崎幹事から STC50-7 に基づき、標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受け付けた意見への対応について、ご意見を受けた修正はエディトリアル又は標準の活用に影響がないものと考えらえる旨の説明があった。審議の結果、保留意見への対応が長きにわたってなされていなかった点、コメントを受けた変更箇所が多すぎるなどから、このまま標準委員会に上程せず、保留意見への対応と並行させる形で改めて専門部会で 15 日間の書面投票を実施し、分科会の対応に対する賛否を問うことになった。

主な質疑は以下。

C：標準委員会の決議投票における意見付き保留への対応が速やかに行われていなかったことはよくない。投票から半年以上も経ってから報告を受けても対応に苦慮する。

C：投票時のご意見への対応リストについて、賛成票及び意見付き保留のコメントを分けて整理すること。

- C：保留意見への対応を速やかに進めること。
- C：変更箇所はエディトリアル又は標準の活用に影響しないものとの説明があったが、変更箇所があまりに多いこともあり、改めて書面投票する。投票に必要な書類を準備し、事務局へ送付すること。
- C：二人の委員から、用語の定義が長いというコメントがある。短く一つの句とする案を考えた上で、この語句がないと必要な事柄が欠けてしまうためこれだけの長さの定義が必要とするならば理解するが、“丁寧な説明を必要とする”との回答では理解されないと考える。例えば、3.11 プラント安定性で“蒸気流量、原子炉圧力…”と列記することを止めて、句点の後に“原子炉の主要な変数は蒸気流量、原子炉圧力…”をいう”と補足する案ではだめとの説明なら納得してくれるかも知れないが。
- C：回答の書き方がまずいのかも知れない。どちらかというとな実際の核熱カップリング計算するときに分かりやすくなっているわけだからこの定義でよいのでは。我々としてはこれで一度OK出しており、熱屋からするとそんなおかしな定義ではない。
- C：4.1 一般事項に追記した“4.4に記載の事項に留意した上で”は、4.4の冒頭の記載との関係が繰り返しているように見えてわかりにくいと思うので、整理してほしい。
- A：拝承。4.1の当該の記載を削除する。
- C：コメント18の回答“4.3.2.2以降で参照”は、4.3.2.3炉心内熱水力モデルを指しているように見える。ぶら下がり段落を解消したことによる項目番号のずれが解消できているのか。
- A：コメント回答の記載だけの問題なので、それを修正する。
- C：項目番号のずれについて確認すること。
- A：確認する。

- 6) 【報告・審議】(STC50-8-1, STC50-8-2-1, STC50-8-2-2, STC50-8-3, STC50-8-4)
 “統計的安全評価の実施基準：201X”標準改定原案の書面投票における反対意見などへの対応について
 (担当：事務局、統計的安全評価手法標準分科会 工藤主査、尾崎委員、末廣常時参加者)
 事務局からSTC50-8-1に基づき、題記標準改定原案の決議投票結果、1票の“意見付き反対”があったが、審議細則に従い可決された旨報告された。引き続き統計的安全評価手法標準分科会 工藤主査、尾崎委員からSTC50-8-2-1, STC50-8-2-2, STC50-8-3, STC50-8-4に基づき、4月の書面投票以降の用語及び定義に対する意見に限らずその全て意見についての回答を説明された。審議の結果、STC50-8-4で提示された標準改定原案について次回標準委員会で報告することが決議された。

主な質疑は以下。

- C：標準改定原案は、標準委員会の決議投票時点からの変更箇所があるため、標準委員会にて投票を再度行うことも含めて、判断頂くこと。
- Q：“メタモデル”は、標準の中では比較的軽度に触れられるのみであるにも関わらず、なぜ“用語及び定義”に加えるのか？
- A：本文規定に含まれるものであり、従来から盛り込んでいたレスポンスサーフェス法に対して、知見の進展を考慮してKriging法なども含む幅広い用語に変更したため。
- Q：パラメトリック法などのメタモデルと並列的な関係にある用語も本文規定には同様に登場するものの、“用語及び定義”には登場していないが？
- A：パラメトリック、ノンパラメトリックについては、統計的安全評価のステップを進めるための具体的な実施事項として、附属書の参考の方でかなり具体的に説明を加えている。
- C：“メタモデル”は、比較的軽度に触れられるのみなのであえて追加しなくても良い、追加するならばメタモデルにもう少し触れる方が良いとの考えであり、同じ意見だ。分科会は更に触れる必要はないという返答だったが。
- A：メタモデルの定義がある方がよいと考えるが、専門部会の判断ならば削除することに同意する。ただし削除したら、標準の読者に不親切なことになると考える。
- Q：“用語及び定義”に挙げる用語は、一般的に使用される定義とは異なる定義にて標準

中で使用する用語である。これらの判断は、分科会に任されているのが現状であり、分科会ごとに色々な尺度がある。同標準において“メタモデル”を使用することは、本文の規定で使用されること及び上記に照らしたものとして理解してよいか。

A：その観点で残すのがよいと考えている。

C：現状では、分科会判断に任せることで良いが、今後は混乱のないように、用語及び定義に掲載する用語の選定ルールをしっかりと作るのが良い。これを専門部会で共有したことを記録として残して頂きたい。

7) 【審議】(STC50-9-1, STC50-9-2)

基本戦略タスクからの依頼 “学協会規格高度化 WG 報告書（案）が挙げる論点への対応について” について

（担当：基本戦略タスク 河井幹事）

基本戦略タスク 河井幹事から STC50-9-1, STC50-9-2 に基づき、“基本戦略タスクからの協力依頼文 “学協会規格高度化 WG 報告書（案）が挙げる論点への対応について”（案）について説明があり、委員からのコメントを依頼した。また、9月4日開催した標準委員会の資料を用いて、同依頼文が引用する学協会規格高度化 WG 報告書（案）の概要説明があった。

主な質疑は以下。

Q：システム専門部会で具体的には何を検討して欲しいのか。

A：論点に対して、学協会規格の全体像を念頭に、専門部会としてどのような標準の制改定に早期に着手すればよいかを検討いただきたい。具体的には、依頼文に添付している標準の制改定候補（高度化 WG で議論したが結論が出なかったものなので、報告書には載っていない）について対応を検討して欲しい。

C：廃止措置では電気、機械、土建との連携が必要だ。SAM では機械学会との連携が要る。

8) 【報告・依頼】(STC50-10)

ASRAM2019 報告

（担当：基本戦略タスク 成宮幹事）

基本戦略タスク 成宮幹事から RKTC50-8 に基づき、題記について報告された。ASRAM2020 は来年、日本で開催されるとの報告があった。

9) 【報告・依頼】(STC50-11)

標準策定 5 年計画の更新について

（担当：システム安全専門部会 鈴木幹事）

システム安全専門部会 鈴木幹事から STC50-11 に基づき、題記について説明され、必要な追記をするように依頼があった。特に、PSR+指針と水化学分析方法は、本報告、制定見込みなどの区切りを記入する。

また、標準アンケートへの対応を記入して、5 年計画にもアンケートを踏まえた対応が記入できると良い。もう 1 つ、新知見情報の確認も必要で、いずれも、「標準策定 5 年計画の更新ガイドライン(SG-105)」により整理する。

10) 【報告】(STC50-12)

システム安全専門部会 分科会活動状況について

（担当：各分科会代表者等の関係者）

分科会の代表者から STC50-12 に基づき、分科会の活動状況について報告があった。

11) 【報告】(STC50-13)

システム安全専門部会・分科会倫理教育の受講実績

（担当：担当：システム安全専門部会 鈴木幹事）

システム安全専門部会 鈴木幹事から STC50-13 に基づき、題記について説明され、確実に学習し、フォローするよう協力依頼があった。

12) 【報告】(STC50-14)

現行標準の5年毎の改定実施状況の調査について

(担当：担当：システム安全専門部会 鈴木幹事)

システム安全専門部会 鈴木幹事から STC50-14 に基づき、題記について標準委員会基本戦略タスクに報告することが報告された。

13) 【その他】(STC50-参考3)

事務局からSTC50-参考3に基づき、原子力学会標準の幅広い利用に向けてのお願いがあった。

6. その他

- ・今後の予定：次回は2020年2月6日(木)13時から
- ・標準委員会ファイルサーバの使用状況は様々で改善が必要(ファイル名が文字化けしたがマクロで復元できた1名、復元できなかった2名、ファイルサーバにアクセス不可1名等)

以上